

独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター紀要要領

1 目的

「独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要（以下「紀要」という。）」（英文名称 Bulletin of National Institution For Youth Education Research Center For Youth Education）は、青少年教育研究センター（以下「研究センター」という。）における研究成果を公表するとともに、広く青少年教育指導者や研究者などの青少年教育関係者から青少年教育に関する理論や実践的な調査研究の成果を募り、その発表の場として、誌上を通して青少年教育施設、青少年教育団体などの関係者等に提供することを通じて、今後の実践活動や研究活動などの充実に資することを目的とする。

2 投稿資格

投稿者は、次のとおりとする。ただし、研究センターが特に認めたものはこの限りではない。

青少年教育施設・団体関係者、社会教育施設・団体関係者、青少年・社会教育行政関係者、学校教育関係者、青少年教育研究者 等

3 投稿原稿

(1) 原稿の内容

投稿原稿は青少年教育に関するもので、原則として未発表のものに限る。また、以下のものについては初出を明記することを条件として未発表のものとする。

- ① 各種学会大会等において発表要旨集等に収録されたもの。
- ② シンポジウム、研究発表会、講演会等で概要、資料等として発表されたもの。
- ③ 国、自治体、業界、団体等からの委託による調査研究成果報告書等に収録されたもの。
- ④ その他研究センターが特に認めたもの。

(2) 原稿の種類と内容

表1のとおりとする。

表1 投稿原稿の種類と内容

種類	内容	制限文字数
総説	青少年教育に関する先行研究の総括	1600字×10ページ
原著	青少年教育に関する独創的な研究論文	1600字×10ページ
実践報告	青少年教育に関する実践報告	1600字×5ページ
資料	青少年教育に関する有用な資料	1600字×5ページ
その他	掲載論文に対する意見、海外動向、書評など	1600字×2ページ

4 執筆要領

原稿は別紙「執筆要領」に従い、原則として和文で記述する。なお、研究センターが認めた場合はこの限りではない。

5 原稿の査読及び採否等の決定

投稿原稿は、研究センター及び有識者等によって査読を行い、掲載の採否を決定する。

6 原稿料等

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

7 原稿の校正

原稿の校正は、執筆者に依頼する。

8 著作権

- (1) 紀要に掲載された原稿の著作権は投稿者自身に帰属する。
- (2) 紀要に掲載された原稿の著作権は、独立行政法人国立青少年教育振興機構（以下「機構」という。）に帰属する。なお、原則として、掲載された論文は電子化し、機構のホームページにおいて情報提供サービスとして公開する。

9 原稿の提出方法及び提出先

(1) 提出方法

原稿は、執筆要領に従って作成し、下記宛にEメールにて投稿する。投稿は、年間を通じて随時受け付け、3月末日までに投稿されたものを、翌年度発行の紀要の査読対象とする。

(2) 提出先

独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL 03-6407-7741（ダイヤルイン） E-mail : kenkyu-soumu@niye.go.jp

執筆要領

1 論文の構成

原則として表2のとおりとする。

表2 論文の構成

カバーレター (添え状)	1ページ	二重投稿	本稿が二重投稿でない旨を記す。類似内容の既報あるいは他紙への投稿がある場合には、その論文との相違点について説明する。
		共著者	共著者全員が本稿の内容に責任を持つことを明示する。また、各著者がどのような貢献をしたのかを具体的に記載する。
		利害の衝突	本稿について利害の衝突の可能性がある場合には、その内容（コンサルタント料、寄付料、株の所有、特許取得など）を報告する。
表紙	1ページ	表題	簡潔かつ明確なもの（和文、英文両方で）
		著者名	著者全員の氏名（和文、英文両方で）
		所属機関名	所属機関名および住所。所属機関が複数になる場合には、各所属機関に番号を付し、著者名に上付き文字で1)、2)付し、対応させる。
		連絡先	代表著者の氏名、住所、電話、FAX、E-mail
		論文の種類	表1から最適なものを選択する。
		文字数	図表、カバーレター、表紙、抄録、文献を除く文字数を記載する。
		図表の数	図、表、それぞれの数を記載する。
抄録	1ページ	抄録	400字以内（目的・方法・結果・結論）
		キーワード	3～5個（和文で）
本文	10ページ以内	緒言	背景と目的
		方法	対象と方法
		結果	図表は文献の後にまとめる
		考察	論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる
		結論	結論は省略してもよい
		謝辞	必要な場合は記載する
		引用文献等	執筆要領に従い、引用順に示す
		図表	1頁に1枚ずつ作成する。本文中に図表を挿入するおおよその位置を明示する。

2 原稿の分量

原稿の分量は、カバーレター（添え状）が1ページ、表紙が1ページ、抄録が1ページ（400字程度）、本文については引用文献等を含めA4サイズ用の用紙1ページあたり1,600字（40字×40行）で10ページ以内とする。図表は本文中に貼り付けず、1ページに1枚ずつ作成し、本文中には図表を挿入するおおよその位置を明示する。

3 執筆要領

(1) 原稿の書式

- ① 記入はパソコン用ワープロソフト（ワード、エクセルが望ましい）を用いること。
- ② 原稿の書式等は、次のとおりとし、特別の場合を除き、横書きとする。

A4版縦置き、40字×40行とし、上下左右に各2.5cmの余白をとること。フォントはMSゴシック、サイズは10.5ポイントとする。

(2) 配字

文章の初字及び文章を改行する場合の初字は第2字目から書き出し、折り返しの初字は第1字目とする。

(3) 見出しの番号付け

見出しにおける章・節・項の展開は、原則として、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ……、1、2、3……、(1)、(2)、(3)……の順序で表示すること。なお、箇条書きの番号付けは、囲み数字か英小文字等を用いて表示すること。

(4) 図・表、写真の番号付け

図及び表は、本文中には入れず、別紙（パソコン用ワープロソフトを用いて執筆する場合は別ページ）に書き、一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに、本文に出てくる順に、「図1」、「表1」の要領により一連番号を付けるとともに、番号に続けてキャプション（見出し及び説明）を付ける。また、本文にそれぞれの挿入箇所を指定すること。

写真は、写りの明瞭なもので、図及び表の扱いに準じて一連番号、キャプションを付けたうえ、挿入箇所を指定するものとする。なお、カラー写真の場合は、冊子体ではモノクロームの印刷となるが、独立行政法人国立青少年教育振興機構が行う情報提供サービスにより公開するものはカラー表示となる。

(5) 引用文献、参考文献、注

引用文献、参考文献、注は、本文中の該当箇所の右肩に「⁽¹⁾」、「⁽²⁾」の要領により一連番号を付け、本文の最後に、番号順にまとめて記載する。

－記載例－

(1) 論文の場合：著者名、論文名、誌名、巻号、発行年、掲載ページ

例) 神園太郎、「青少年の未来」、青少年研究、第8号、1995、pp. 10-15

例) Wellvalley, J., “Adolescent Girls and Outdoor Life”, Journal of Youth Research, 8th, 1999, pp. 356-379

(2) 単行本の場合：著者名、書名、版表示、出版社、発行年、掲載ページ

例) 代々木花子、「野外活動概論」、3版、青年書房、1992、pp. 98-102

(3) 翻訳書の場合：著者名、書名、版表示、出版社、発行年、掲載ページ

例) ディーン、J., 「青少年とメディア」、初版、渋谷次郎訳、少年書院、1989、pp. 75-76

(4) インターネットの場合：著者、記事等のタイトル、ホームページのタイトル、URL、参照日

例) 渋谷次郎、「青少年の現状」、青少年教育普及協会、<https://top.shibuya.go.jp/>、2008年7月7日参照

4 その他留意事項

執筆にあたり写真等を使用する場合は、肖像権・著作権等に十分留意し、本人の承諾取得済のものを使用すること。